

世界保健機関（WHO） Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition (TAG-CO-VAC)での COVID-19 ワクチン抗原構成の推奨について

WHO の COVID-19 ワクチン組成に関する技術諮問グループ（TAG-CO-VAC）は、2026 年 5 月 7～8 日に半年ごとの定例会合を開催し、SARS-CoV-2 の変異株の流行状況、現行ワクチンの有効性、そして今後のワクチン抗原組成について審議を行った。

SARS-CoV-2 の現在の流行状況

2026 年においても、SARS-CoV-2 は世界的に流行を続けており、重症例、COVID-19 後遺症、死亡が報告されている。ただし、感染・ワクチン接種による集団免疫の向上や臨床管理の改善により、医療システムへの負荷は 2020～2021 年当時と比べて大幅に低下している。全ての WHO 地域で、過去の同時期と比較して SARS-CoV-2 の検査陽性率は低下傾向にある。

変異株の動向としては、現在の世界的な主流は「監視対象変異株（VUM）」に分類される XFG であるが、その割合は減少しつつある。一方、西太平洋地域では NB.1.8.1 が優勢となっている。また、BA.3.2 の割合が世界的に増加しているものの、JN.1 系統の変異株を置き換えるほどの拡大には至っておらず、疾病負担の大幅な増加とも現時点では結びついていない。小児においては BA.3.2 が占める割合が成人より高い傾向も一部で見られているが、サンプル数が少なく、解釈には慎重さが求められる。

抗原性の分析では、JN.1 系統内の変異株（LP.8.1、NB.1.8.1、XFG など）は互いに抗原的に近縁であるのに対し、BA.3.2 はこれらとは明確に抗原性が異なることが確認された。LP.8.1 ワクチンを接種した人の血清は、JN.1 系統の各変異株に対して強い中和活性を示し、BA.3.2 に対しても交差免疫が認められたものの、その抗体価は LP.8.1 に対するものより低かった。一方、BA.3.2 を抗原とするワクチン候補は、LP.8.1 ワクチンと比べて全体的な免疫原性が低く、JN.1 系統への交差反応性も限定的であった。ワクチン有効性（rVE）の観点では、1 価 JN.1、KP.2 および LP.8.1 ワクチンはいずれも、既存免疫を上回る症候性・重症 COVID-19 に対する追加的な保護効果を示している。

TAG-CO-VAC による COVID-19 ワクチン抗原構成に関する推奨

1 価 LP.8.1（NextStrain: 25A; GenBank: PV074550.1; GISAID: EPI_ISL_19467828）を COVID-19 ワクチン抗原として推奨する。

現在流行している SARS-CoV-2 変異株に対して、広範かつ頑健な中和抗体応答または有効性を示す他の抗原（例：XFG、NB.1.8.1）や他のアプローチも考慮される。

WHO SAGE の勧告に従い、加盟国は COVID-19 重症化リスクが最も高いグループへのルーティンな COVID-19 ワクチン接種を検討すべきであり、更新された抗原組成を持つワクチンの入手を待ってワクチン接種を遅らせるべきではない。

データの限界

- サーベイランスデータには地理的偏り・遅延がある。
- BA.3.2 の公衆衛生上の影響は現時点では不明である。
- JN.1 系統変異株の感染や 1 価 LP.8.1 ワクチン接種による免疫応答データは中和抗体に偏っており、細胞性免疫を含むその他のデータや解釈が不足している。
- 現時点で、1 価 LP.8.1 mRNA ワクチンの有効性 (rVE) のデータは限られており、BA.3.2 が流行優勢期のデータは存在しない。

総括

LP.8.1 はワクチン抗原として、JN.1 系統変異株に対して広範な交差反応性の免疫応答を誘導することが確認されており、抗原的に異なる BA.3.2 系統に対しても一定の応答を示す点から、現時点での COVID-19 ワクチンの推奨抗原として妥当性が高い。

参考文献

1) Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines. 8 May 2026

<https://www.who.int/news/item/16-05-2026-statement-on-the-antigen-composition-of-covid-19-vaccines>

国立感染症研究所

インフルエンザ研究センター

長谷川秀樹

ワクチン開発研究センター

高橋宜聖